

令和5年度から、専攻の区分「商船学」の修得単位の審査の基準を改正します。改正後の審査基準による学位授与申請の受付は、令和5年度4月期からとなりますので注意してください。

専攻の区分	専攻分野の名称
54 商船学	商 船 学

商船学は、その要素となる学問として航海学、船用機関工学、流通工学に大別される。また手法としては応用数学、応用物理学、機械工学、流体力学、熱工学、自動制御工学、情報工学、管理工学、経営工学および海運政策学等を駆使する幅広い学問である。このため、学士レベルでは基礎をできるだけ幅広く学ぶことが求められる。また、実験実習により、講義で得た知識を実際に確認することも必須である。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62 単位以上）

専攻に係る授業科目の区分	専門科目（40 単位以上）	
	【A 群（講義・演習科目）】（30 単位以上） ○商船学に関する総合的な科目 ○航海学に関する科目 ○機関学に関する科目 【B 群（実験・実習科目）】（6 単位以上） ○商船学に関する実験・実習科目	左の A 群の区分のうちから 2 区分以上にわたること
	関連科目（4 単位以上）	
	◇商船学の基礎となる理工学に関する科目 ◇商船学の周辺分野に関する科目	

■ 専門科目の例 ■

【A 群（講義・演習科目）】

○商船学に関する総合的な科目

航海システム概論、電子機械工学入門、海上危機管理論、船舶工学、安全工学、大気環境学など

○航海学に関する科目

海上交通工学、運航管理学、港湾設計、海洋環境工学、海洋情報計測論、航海システム論、船舶制御論、操船リスクアナリシス、船体リスクアナリシス、海上危険物輸送論、載貨論、海上輸送システム論、輸送環境論、海運政策論、海洋国際管理論、海運経済論、海上保険論、海事国際法、海上労働法、海法、海洋人間科学、海事英語など

○機関学に関する科目

ターボ動力工学、ガスタービン工学、内燃機関工学、エネルギー工学、原子力機関工学、補助機械工学、冷凍・空調工学、流体機械工学、電気工学、電気機器工学、電気推進基礎論、機関システム管理工学、材料力学、機械力学、トライボロジー、金属材料学、環境材料学、工業熱力学、伝熱工学、流体力学、機械設計製図、機械加工学、ロボット工学、水中機器学、ソフトウェア工学、制御工学、基礎電子工学、半導体工学、電子回路論、計測工学、信頼性工学、機関英語、船用工業実務論など

【B 群（実験・実習科目）】

○商船学に関する実験・実習科目

海事システム工学実験演習、電子機械工学実習、電子機械工学実験、学内船舶実験・実習、船舶実習、国際海事訓練セミナー、機関実務実習など